

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年 5月

事業所名 放課後等デイサービス「すきっぷ」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	100%	0%	パーテーションの開け閉めなどで調整している。	人数や活動内容に応じて空間の大きさを変えています。年齢や活動に応じて、空間の使い方を工夫していき、安心して過ごせる環境を作っています。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	ほぼ適切だが、活動内容、不穏時などでは、困ることがある。	・職員間で声かけを意識し、職員集団として対応できるようにしています。 ・全体を把握する職員を配置し、直接支援していると気づかないことを把握しているようにしています。 ・対応が必要な時は、法人内の他事業所からの援助を依頼しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	60%	40%	避難訓練の時、ベランダに出るのに段差を越えられず困った子がいた。	施設内はバリアフリーとなっています。ベランダへの段差は、台を置くなど他の物で代用しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	0%	毎日その日の活動設定と前日の振り返りを職員全体でしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		引き続き、自己評価での意見や日頃の意見をもとに、改善につなげていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	家族配布している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	0%		第三者評価は受けていないが、日ごろの声やアンケートをもとに改善していきます。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内の研修では、全職員で子どもの発達や放課後活動の意義を学びました。	法人内研修、外部研修、自主研修など、今後も研修の機会を作り資質の向上を行います。
	9	イベントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%		家族、学校や他事業所などと情報共有をし作成するようにすすめているところです。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	20%	・更新されていない、新規の時などは活用されている	事業所独自の様式を使いアセスメントしています。経年変化など、情報の更新など適時見直しを図っていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・支援前の打ち合わせを行っている。 ・活動会議で月案を作成している。	月案に基づき週案を作成し、利用児にあわせた活動を設定している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・利用児メンバーに合わせて活動を設定している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	・日課に変化をつけたり活動内容もその時々に応じて設定している。 ・土曜では課外活動、ウォーキングを行った	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	・異年齢による集団活動の難しさもあるので、今後ももっと工夫が必要か？	個別・集団で好きな遊びを楽しむ自由時間と、集団での活動時間を設定しているが、子どもの状況に応じて今後も工夫が必要です。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・打ち合わせで、支援内容や役割分担を確認している。	活動目的や利用児の特性など意識し、確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60%	40%	・帰りの添乗に出る職員もいるので、全員では出来ないが、個人的に振り返ったりしている	支援開始前に行っています。長期休暇は、職員間でコミュニケーションを密に取り、気づきを共有するようにしています。充分でない事があり工夫が必要です。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	80%	20%	・長期休みに入った時の日誌の記入が出来ない時がある(平日は出来ている)	メモや掲示板の活用、コミュニケーションを意識して行う、支援時間の仕事内容の見直しを進めて行き、記録の徹底、支援の検証改善をしていきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		検討会議を行い計画を作成しています。ケースによっては、他事業所と連携し多様な視点から分析して作成をしています。家族とも内容確認を行っています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		基本の活動をベースに、本人家族ニーズに合わせ、療育活動を組み合わせ合わせて支援をおこなっています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	0%		すきっぷ内で相談支援事業所も参加したケース会議を行いました。今後は相談支援事業所だけでなく、学校、他事業所など関係機関と一緒に支援など検討をしていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%		支援学校はメールや電話等で情報共有しています。地域の学校は保護者に協力をいただきながら調整等しています。本人状況など積極的に情報共有をしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	20%	・受け入れをしていない。 ・軽い発作などが起きた時は、まずご家庭に連絡している。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	・始めている。	就学前施設に訪問し、見学、担任と情報共有を行っており、今後も続けていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		学校や事業所、家族からの希望に合わせて行ってきました。今後も続けていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%		リモート交流や研修に参加し支援に生かしてきました。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	60%		可能な活動内容など模索しながら、交流をはかっていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	・参加している。	リモート交流や研修に参加しています。他事業所との横のつながりの場となっています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・努力している	今後も日頃からの伝え合いを丁寧にしていき、共通理解を持てるようにしていきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	40%	0%	・保護者向けの企画は行ってきたが、対応力の向上といった点では？ ・家族企画などを通して強化していく方向に進んでいる	学習会やグループ懇談を行い、家族の悩みや不安を一緒に考えてきました。今後も取り組みを進めていき、困った時に一緒に考えあえる事業所を目指したいです。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	・利用契約時に行っている	利用契約時に説明しています。適宜、質問に対して説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	0%	・懇談、電話相談、連絡帳などで行っている	子育ての悩みや相談を一緒に考えていけるような関係づくりを目指しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	・今後、更にこの活動を強化していく方向で進んでいる	多様な取り組みを進めて行き、保護者同士の連携を深めて行けるよう努力していきたい。通信などで伝えていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		窓口を担当する職員以外にも、それぞれが聞き取った内容を共有し、事業所として適切に対応する努力をしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	・定期的にすきっぷ通信を発行している	すきっぷ通信やホームページを通じて、写真などを多用し、活動の様子などを伝えています。年度末には家族向け写真展を行いました。
	35	個人情報に十分注意している	80%	0%	・注意はしているが完全ではない部分もあると思う	入れ間違い渡しまちがいがなどで情報の漏れがありました。利用児にまつわる情報の取り扱いや共有方法など適時見直しをしています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・連絡帳は家族とつながる大切なものとしてとらえ、丁寧に受け答えを心掛けている。	絵カードを使った掲示物で目線がわかるようにしています。必要に応じて個別の予定表を活用しています。マニュアル等は保護者に文書配布をしています。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	20%	60%		地域とのつながりづくりについて模索して取り組んでいきたいです。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	0%	・防犯マニュアルが作成されていない。それ以外では周知できてきた。	緊急時や感染症対応マニュアルの配布、引き渡しカードの作成を行いました。防犯マニュアルについては再度確認をし保護者への周知に取り組みます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・訓練回数を増やして行った。火災、地震と分けて行った ・長期休み、平日などいろんな状況を想定して訓練を行った。	手作りの視覚教材を使って非常時の避難の仕方や災害時等の危険について学びました。色んな時間帯に避難訓練を行い、子どもたちの動きを把握するようにしています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	・全職員研修を受けた	外部講師を招いて研修を行いました。他事業所の職員との学びの場など、色々な価値観で支援について学べるようにしていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	40%	0%	・身体拘束が必要な子がいない ・対象となるケースがなかった ・身体拘束などは、行うことなく支援している	支援状況が身体拘束にあたらないのか常に振り返りを続け、支援内容の工夫を続けています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	・アレルギー対応の子がなかった	現状はなかったが、以前は対応しており、今後も必要あれば対応していきます。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	・日誌や振り返りすきっぷ会議などで共有している ・半期ごとにヒヤリ事故を分析・検討し支援に生かすようにしています。	事例ごとの対策も考えるが、時間や内容、場所など傾向を分析・検討し支援に生かしている。法人内のリスクマネジメント会議では、他事業所の事例から学んだり意見交流をし、事業所内で共有しています。	